



ハロウィン

すっかり日本の行事として定着したハロウィン。本の世界でもイベント気分を楽しんでみませんか。

『名探偵ポアロ ハロウィーン・パーティ』

アガサ・クリスティー / 早川書房



小さな村のハロウィーンパーティで「殺人をみた」と話した少女が殺された。嘘つきで有名だった彼女の言葉を信じ、周辺で起きた未解決事件の謎に迫っていくポアロ。ミステリーの女王が生み出した名探偵が導き出した真相とは。年齢を問わず秋の夜長の読書におすすめの1冊。

『おばけくんのハロウィン』

新井洋行 / KADOKAWA



おばけのこども「おばけくん」は遊び相手がいないでいつも独りぼっち。でもハロウィンの日なら、おばけに仮装している子どもについていても、誰にもおばけだと気づかれないのです。一緒に「トリック・オア・トリート！」と、次々と家をめぐっておかしをもらっていくのですが…。小さなお子さんでも楽しめる絵本。

雑誌リサイクル

日程

10 / 29(土) 30(日)

【時間】午前10時～午後6時

会場

図書館全館

内容

平成30年9月から令和元年8月末までに図書館で購入した雑誌57種類 723冊 (予定)

保存期限が切れた雑誌を希望者へお譲りする雑誌リサイクルを行います。



※図書カードご持参の上、ご来館ください

注意事項

- 電話等での予約・取り置き、交換はできません
- 一部タイトルは、お1人1冊となります
- 館内が「密」になると職員が判断した場合は、入館を制限する場合があります
- 数に限りがあるため、先着順でなくなりしだい終了します
- 雑誌タイトルなどの詳細は、館内掲示ポスターまたは図書館ホームページでご確認ください

おはなし会を開催します

— 3会場とも午前10時30分から行います —

▶ 加悦分室…10月8日(土) ▶ 野田川分室…10月22日(土) ▶ 本館…11月5日(土)

※ 新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。また、状況によって変更または中止する場合があります。



- 問い合わせ先 / 与謝野町立図書館 ☎ 46-2451 加悦分室 ☎ 43-0376 野田川分室 ☎ 43-0087
- 開館時間 / 午前10時～午後6時 ● 休館日 / 毎週月曜 (本館・加悦分室)、毎週火曜 (野田川分室)、毎月最終木曜 (共通)

皆さん、こんにちは、エリックです。私の故郷であるアメリカのオレゴン州では、とても多くの雨が降ります。オレゴン州は広大な国土を持つアメリカの中でも特に雨が降りやすい州として有名で、故郷の方々は雨に備えて雨靴を用意しています。

また、雨に備えてレインジャケットを着ている方も多くいますが、多くのオレゴン州の方々は「私は雨が大好きだ」と言い、傘を使用することはほとんどありません。この傘を使わない感覚は、日本人の方からすると意外に思われるかもしれませんが、この感覚の違いは日本とオレゴン州の「湿度」の違いから生まれています。

オレゴン州は日本と比べるととても乾燥した地域で、雨が降るときにもほとんど湿度がありません。そのため、雨に降られても不快な気持ちになることは少なく、むしろシャワーのように心地よく感じられるのです。そのため、私が与謝野町に来たときに

与謝野町の方々が「弁当忘れても傘忘れるな」というアドバイスをくれたときにも、私は傘は必要ないと考えていました。しかし、実際には与謝野町の雨はとても傘なしではられないようなものでした。今では傘は私の必需品の内の1つです。

英語に“When it rains, it pours.”という言葉があります。これは、直訳すると「小雨の後には、大雨が降る」というような言葉になりますが、アメリカでは天気に対して用いることは少なく、「悪いことが起きると、その後さらに悪いことが起きる」という意味で用いることが多い言葉です。この言葉は与謝野町では、「すぐに止みそうな小雨であっても、そ



日本では傘は必需品の1つですね

の後大雨が降る可能性があるので、傘は常に持ち歩くべき」というような言葉としてとらえることができると思います。

皆さんもお出かけの際は、弁当を忘れても傘は忘れないようにお気をつけください。

時の贈り物

[第123回 さわやかな竹の屏風]

山文庫企画展「屏風あれこれ」新収蔵屏風とともに「第2部」で展示中の屏風「竹林図」を紹介いたします。作者の都路華香は、明治から昭和初期の京都画壇で活躍した日本画家です。明治6年(1871)に生まれ、9歳で幸野樸嶺に入門し、竹内栖鳳らと共に樸嶺門下の四天王と呼ばれました。四条派の継承者である樸嶺の弟子らしく、余白を大きく取って太い竹の幹や葉を描いています。地面や背景を一切描かないことで、見る人がどのような竹林の様子を想像できる余地を生んでいます。写真は白黒ですが、竹はすべて緑一色で描かれており、なんと涼しげです。このように墨で輪郭線を引き、色のみで表現する描法を「没骨」といいます。画面に黒がないことで竹の緑がより鮮やかに見え、色彩感覚の豊かさを特徴とする華香が、明治末年



都路華香筆「竹林図」紙本着色 六曲一双屏風(部分)

ごろから用いた岩絵の具を分厚く塗り重ねる技法が没骨描法や屏風の形式とよく合い、立ち位置によって竹の表情が変化するようにも見えます。竹は秋に最も葉が青々とすることから、俳句では「竹の春」が秋の季語になっています。さわやかなこの季節、江上文庫で竹の屏風をぜひご覧ください。(与謝野町教育委員会)